



箕輪進修高校 進路指導室

2012. 5. 21

3, 4年生用 No.13

日本企業へのエール



今日本の企業は大変厳しい状況にあると言われ、日本企業の先行きが懸念されています。しかし、振り返ってみればこれまでも何度もそうした時期がありました。もう駄目だといいつつも日本の中小企業はそうした時期を必死でしのいできました。欧米は企業が赤字になるとすぐにつぶそうとしますが、日本の企業はとことん粘り維持しようとします。

欧米は、企業は利益を生み出す手段であり、利益が上がらない部門や企業は簡単に切り捨ててしまいます。利益が上がっていても、自分の築いた会社や技術を買手が付けばすぐに他に売り払ってしまうということも日常に見られることです。

日本の経営者は企業にとことん愛情を注ぎ、多少赤字でも何とか維持しようとしています。良い時も悪い時も我が子にひたすら愛情を注ぎ続ける親のようなものなのでしょう。様々な厳しい修羅場をしのぎつつ技術力を付け生き残ってきました。

また欧米人は現場で働くことを軽んじがちですが、日本人は特に中小企業では社長が現場で従業員と一緒に働くことはよく見かけることです。日本人の仕事に対する意識が欧米人とは異なるのでしょう。

いかに厳しくともこうした**日本人の仕事に対するひたむきさが、日本の企業をそれぞれの時代の荒波の中で支え続けてきた**のです。今後も是非日本の中小企業には頑張ってもらいたいものです。

企業の方のお話より

今年は大卒の応募状況は求人に対して20倍の生徒が集まった。大学生も大変厳しい。

信英畜電器箱

各企業共に人は欲しいと思っけていても、これまでうちのような中小企業には新卒者が来てくれなかった。ここ2、3年ようやく来てくれるようになった。学力はそんなにいらぬ。元気でやる気のある子が欲しい。

ある中小企業経営者

忘れるな。卵は自ら割れば生命になるが、人が割れば料理の材料だ。

(つらいから青春だ、キム・ナンド)

【コメント】
人それぞれ、何かしらの殻をもって生きていると思います。

殻のなかに居続けているのは、

楽というか、守られている感じがあるので、不守感が少ないです。

けれど、いつまでも殻の中にいるわけにはいかない。

なんとか、外に飛び出して生きていく力と勇気をもたないといけない。

自分で自分の殻を破るか、誰かに破ってもらうことになるか。

その違いは大きいです。

自分で克服できたことと、それが出来なかったことでは、弱点としての残り方が違うようです。自分で克服できた弱点は、むしろ、強みになっていることが多い。